

2017.2.10 21:45

**【明美ちゃん基金ミャンマー医療団】治療終了、33人の命救う 「カテーテルの技術大きく進歩」  
「小さな子供の手術もできた」医師ら評価**

【ヤンゴン=小泉一敏】国内外の心臓病の子供たちを救う「明美ちゃん基金」（産経新聞社提唱）の医療団が10日、ミャンマー・ヤンゴンの国立ヤンキン子供病院で心臓病の子供たちの治療を終了した。今回は内科25人、外科8人の計33人を治療した。

内科チームの須田憲治医師（久留米大学医学部）は「動脈管開存症などのカテーテル治療の技術は大きく進歩した」と評価する一方で、「ミャンマーには病気が進行し、手術に耐えられるかどうかギリギリの状態の患者がたくさんいる。手術に耐えられるかどうかの判断はまだできておらず、そうしたところにも技術支援の手を広げていく必要がある」と話した。

一方、外科チームの森本和樹医師（京都府立医科大学付属病院）は「小さい子供への治療が課題となっている中、これまでよりも体が小さい5キロの子供を手術できたことが大きい。ただ、手術には、麻酔や人工心臓などのチーム全体での向上が必要」と指摘。水谷晃暢臨床工学技士（国立循環器病研究センター）は「前回よりも手術準備がスムーズになっている。より小さな子供の治療を経験したことで、より繊細な作業が必要ということを伝えることができたと思う」と語った。



カテーテル治療を受けた女兒、ピョー・ピョー・ルイちゃんと両親。右端は治療後の経過を見守る昭和大学横浜市北部病院循環器センターの富田英センター長＝10日午前、ミャンマー・ヤンゴンの国立ヤンキン子供病院（福島範和撮影）